

J.LEAGUE NEWS



編集・発行
社団法人 日本プロサッカーリーグ
ホームページ <http://www.j-league.or.jp>

スポーツで、もっと、幸せな国へ。Jリーグ百年構想

Vol. **152**
30.Sep.2008

Will Be
J.LEAGUE



写真左はU-15 Jリーグ選抜のブラジルキャンプ、同右上はU-16 Jリーグ選抜のUAEキャンプ、同右下はU-14 Jリーグ選抜のオランダ/ドイツキャンプ

育成年代のJリーグ選抜が貴重な国際経験

U-14、U-15、U-16が、それぞれオランダ/ドイツ、ブラジル、アラブ首長国連邦の海外キャンプへ

Jリーグは今年も8月18日から9月1日の期間、育成年代の選抜チームを海外キャンプに派遣した。2005年に始まったこの海外キャンプには、昨年までU-15 Jリーグ選抜が参加していたが、今年は新たにU-14 Jリーグ選抜がオランダ/ドイツ、U-16 Jリーグ選抜がアラブ首長国連邦を訪れ、U-15 Jリーグ選抜は恒例となったブラジルでの「日伯友好カップ」に出場した。現地では試合や練習のほか、社会見学や現地の人々との交流も実施。サッカーを取り巻く環境をはじめ、気候、生活習慣などが異なる地域で過ごした約1週間の貴重な経験は、参加した選手やスタッフにとって、今後のキャリアに大きな財産となることだろう。(2ページに関連記事)

J.LEAGUE OFFICIAL SPONSORS



NETWORK PARTNER



J.LEAGUE 100 YEAR VISION PARTNER



J.LEAGUE BROADCASTING PARTNER



LEAGUE CUP SPONSOR



J.LEAGUE ALLSTAR SOCCER SPONSOR



SUPER CUP SPONSOR



EQUIPMENT SUPPLIER



J.LEAGUE OFFICIAL SUPPLIER



U-14/U-15/U-16 Jリーグ選抜 海外キャンプ 成長を促したピッチ内外の体験



U-14 オランダ/ドイツキャンプ

オランダでは国際大会に出場(写真下)。「相手の一つ一つのプレーに意志を感じた」との感想も



U-15 ブラジルキャンプ

恒例となった日伯友好カップに参加。元日本代表監督のジーコ氏も激励に訪れた(写真右)



U-16 アラブ首長国連邦(UAE)キャンプ

ドバイの日本人学校で、児童たちを前に巧みな技術を披露する選手たち(写真左)

©グリオインターナショナル

猛暑の中の激戦

育成年代のJリーグ選抜による海外キャンプは、U-15 Jリーグ選抜が日伯友好カップに出場するブラジルキャンプに加え、昨年は2チーム編成によって、もう1チームをドイツキャンプに派遣した。今年はさらに地域と年代の 카테고リーをを広げ、U-16 Jリーグ選抜がアラブ首長国連邦(UAE)キャンプ、U-14 Jリーグ選抜がオランダ/ドイツキャンプを実施した。

今回、新たな試みとなったのが UAE キャンプ。日中の気温が40度を超える中東の国が選ばれた理由の一つを、団長として引率したJリーグの山下則之 技術委員長は「日本が世界の舞台に立つためには、中東勢との戦いが不可避。プロ契約も近い年代の選手に、その土地でのプレーや生活を体験させるのも、非常に有意義なこと」と語った。

実際に日中はトレーニングが難しい高温のため、夕方の練習までの時間の過ごし方、エアコンの効いた屋内でのコンディショニング、試合や練習時の飲水など、さまざまな課題を解決していく過程で、選手にとってもスタッフにとっても、「欧州や南米では得ることのできない貴重な経験」(山下技術委員長)を積むことができた。

また、ドバイの日本人学校では、約160人の児童を対象にサッカー教室も開催した。学年別に多彩なメニューで子供たちを楽しませる手際の良さは「コーチらが普段から行っている巡回指導などの成果」(同)。お手本を披露した選手たちもサイン攻めにあうなど、充実したときを過ごすことができた。

その後、児童や父兄の方々は日の丸の小旗を持って試合の応援に駆けつけてくれるなど、交流はさらに深まった。

アルアインとの試合では、体格やスピードに勝るU-18の選手と、猛暑の中で90分の試合も行った。選手、コーチ陣が、チームとして一つになって戦う強いメンタリティーを持って挑み、激しいプレーに押されながらも5-4と勝利を収めたことは、選手たちにとってかけがえのない経験となり、自信となったことだろう。

言葉の壁を乗り越えて

U-15 Jリーグ選抜は、ブラジルのリオデジャネイロで開かれた「第11回日伯友好カップ」に出場した。名取篤監督(浦和レッズ)から「目の前の相手に負けない。局面では必ず戦うこと」との指示を受けて臨んだ選手たちだが、バスコダガマなど強豪の前に1分2敗と、グループステージ突破はならなかった。チームに主務として帯同したJリーグ事務局の重野弘三郎は「プロを目指す選手が勝負に対する厳しさや、そのために必要な技術、どん欲さを身につけるためには、ブラジルは格好の場所であると感じた」と感想を述べた。

やはり初の海外キャンプとなったU-14 Jリーグ選抜は、国際大会である「ミモザカップ」参加や練習のほか、オランダとドイツのクラブ、スタジアムの訪問などを行った。

今回のキャンプでは「サッカー以外にも現地の仲間をつくる」というテーマの下、地元のクラブと交流を行い、選手たちは言葉の壁を乗り越えようとして一生懸命、コミュ

ニケーションに努めた。クラブの施設、ホスピタリティーも充実し、欧州のスポーツクラブにおける週末を体感するには、非常にいい機会となった。

参加した大会は初の開催で、主催者は出場クラブとの調整などに苦心したようだ。主務として同行したJリーグ事務局の中村聡は「Jリーグ選抜は各クラブの指導者による推薦を得た選手たちのチームである以上、対戦相手にもそれなりのレベルを求める必要がある」と、今後への課題も提起する。

ブラジル、オランダ/ドイツには昨年同様、日本サッカー協会(JFA)の協力によって国際経験や、教育的役割を求められる育成年代のレフェリング経験の機会を設ける目的で、JFA1級審判員が1名ずつ帯同した。現地の試合の審判を務めたほか、選手たちへのルール講習会も有意義に行われた。

集合当初はおとなしい印象のチームも、監督をはじめスタッフの尽力もあり、厳しい試合の経験などを通してチームの結束も増した。備品の管理や選手間の連絡も自主的に行われるようになり、それぞれ約1週間の海外キャンプではあったが、十分な成長の跡がうかがえた。

また、今回の海外キャンプは、受け入れ各国の関係者の多大な協力の下に行われ、大きな成果を収めることができた。

● Jリーグ選抜 海外キャンプサプライヤー

ミスノ株式会社 : U-14、U-15 Jリーグ選抜にユニフォーム、移動着などを提供

アディダス ジャパン株式会社 : U-16 Jリーグ選抜にユニフォームを提供

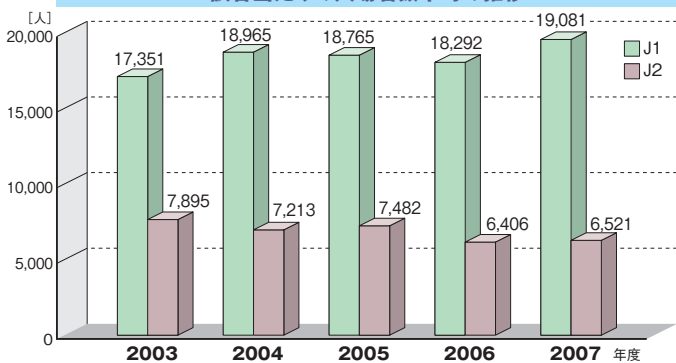
株式会社モルテン : U-14、U-15、U-16 Jリーグ選抜にタクトイクスボードなどの備品を提供

2007年度Jクラブ情報開示

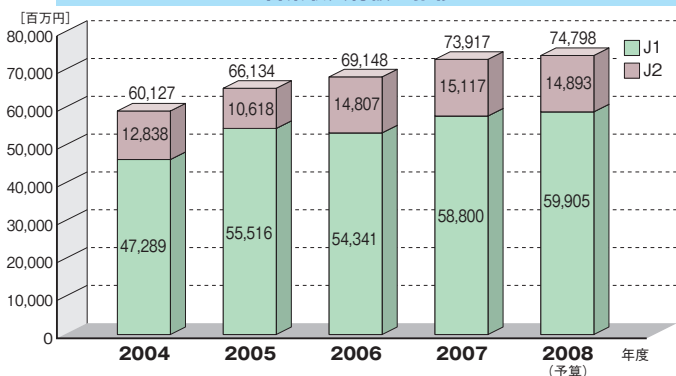
1試合当たりの入場者数

2006年度平均入場者数		2007年度平均入場者数	
【J1】(ホーム各17試合、全体306試合)		【J1】(ホーム各17試合、全体306試合)	
鹿島	15,433	鹿島	16,239
浦和	45,573	浦和	46,667
大宮	10,234	大宮	11,741
千葉	13,393	千葉	14,149
F東京	24,096	柏	12,967
川崎F	14,340	F東京	25,290
横浜FM	23,663	川崎F	17,338
甲府	12,213	横浜FM	24,039
新潟	38,709	横浜FC	14,039
清水	14,302	甲府	13,734
磐田	18,002	新潟	38,276
名古屋	14,924	清水	15,952
京都	9,781	磐田	16,359
G大阪	16,259	名古屋	15,585
C大阪	13,026	G大阪	17,439
広島	11,180	神戸	12,460
福岡	13,780	広島	11,423
大分	20,350	大分	19,759
18チーム平均	18,292	18チーム平均	19,081
【J2】(ホーム各24試合、全体312試合)		【J2】(ホーム各24試合、全体312試合)	
札幌	10,478	札幌	12,112
仙台	14,453	仙台	14,685
山形	5,085	山形	4,243
水戸	3,017	水戸	2,415
草津	3,736	草津	3,808
柏	8,328	東京V	7,327
東京V	5,705	湘南	4,677
横浜FC	5,119	京都	6,629
湘南	5,365	C大阪	6,627
神戸	6,910	徳島	3,289
徳島	3,477	愛媛	3,317
愛媛	4,139	福岡	9,529
鳥栖	7,465	鳥栖	6,114
13チーム平均	6,406	13チーム平均	6,521

1試合当たりの入場者数平均の推移



営業収入総額の推移



JリーグはJクラブ経営の透明性向上のため、一昨年より、Jクラブの個別経営情報を加えた経営情報を発表している。昨年より、全項目が開示されている。

2007年は前年同様、J1が18クラブ、J2が13クラブの31クラブの編成とし、J1は1ステージ制の3年目であった。

J1の1クラブ当たりの平均営業収入は、32億6700万円(前年度比+8%)、J2は、11億6300万円(同+2%)といずれも増収となった。クラブ別売上高規模分布表で見ると、営業収入が30億円以上のクラブが3クラブ増加し、11クラブとなった。

クラブ別経常利益規模分布表の通り、入場料収入、その他収入等の増収により、収益状況が改善し、経常赤字クラブが前年度の15クラブから7クラブと大幅に減少した。

1クラブ当たりの平均入場料収入はJ1が6億8900万円(前年度比+8%)、J2が2億500万円(同+6%)、平均広告料収入はJ1が15億1000万円(同+5%)、J2が4億4700万円(同-10%)、Jリーグ配分金はJ1が3億3600万円(同+7%)、J2が1億2300万円(同+5%)であった。

クラブ別売上高規模分布表

年度	2006年度(平成18年度)					2007年度(平成19年度)						
	規模	J1	割合	J2	割合	全体	割合	J1	割合	J2	割合	全体
10億円未満	0	0.0%	7	53.8%	7	22.6%	0	0.0%	7	53.8%	7	22.6%
10億円以上20億円未満	3	16.7%	4	30.8%	7	22.6%	3	16.7%	3	23.1%	6	19.4%
20億円以上30億円未満	8	44.4%	1	7.7%	9	29.0%	4	22.2%	3	23.1%	7	22.6%
30億円以上	7	38.9%	1	7.7%	8	25.8%	11	61.1%	0	0.0%	11	35.5%
合計クラブ数	18	100.0%	13	100.0%	31	100.0%	18	100.0%	13	100.0%	31	100.0%

■2007年度の売上高ビッグ5クラブ(北から): 鹿島、浦和、横浜FM、磐田、名古屋

クラブ別経常利益規模分布表

年度	2006年度(平成18年度)					2007年度(平成19年度)						
	規模	J1	割合	J2	割合	全体	割合	J1	割合	J2	割合	全体
0円未満	8	44.4%	7	53.8%	15	48.4%	4	22.2%	3	23.1%	7	22.6%
0円以上200万円未満	1	5.6%	4	30.8%	5	16.1%	2	11.1%	4	30.8%	6	19.4%
200万円以上400万円未満	2	11.1%	1	7.7%	3	9.7%	0	0.0%	5	38.5%	5	16.1%
400万円以上	7	38.9%	1	7.7%	8	25.8%	12	66.7%	1	7.7%	13	41.9%
合計クラブ数	18	100.0%	13	100.0%	31	100.0%	18	100.0%	13	100.0%	31	100.0%

■2007年度の経常利益ビッグ5クラブ(北から): 鹿島、浦和、千葉、横浜FM、甲府

クラブ別純資産規模分布表

年度	2006年度(平成18年度)					2007年度(平成19年度)						
	規模	J1	割合	J2	割合	全体	割合	J1	割合	J2	割合	全体
0円未満	2	11.1%	4	30.8%	6	19.4%	4	22.2%	3	23.1%	7	22.6%
0円以上500万円未満	3	16.7%	2	15.4%	5	16.1%	1	5.6%	2	15.4%	3	9.7%
500万円以上1億円未満	0	0.0%	2	15.4%	2	6.5%	2	11.1%	1	7.7%	3	9.7%
1億円以上2億円未満	3	16.7%	2	15.4%	5	16.1%	1	5.6%	2	15.4%	3	9.7%
2億円以上	10	55.6%	3	23.1%	13	41.9%	10	55.6%	5	38.5%	15	48.4%
合計クラブ数	18	100.0%	13	100.0%	31	100.0%	18	100.0%	13	100.0%	31	100.0%

■2007年度の純資産ビッグ5クラブ(北から): 鹿島、浦和、F東京、川崎F、広島

クラブ別借入金規模分布表

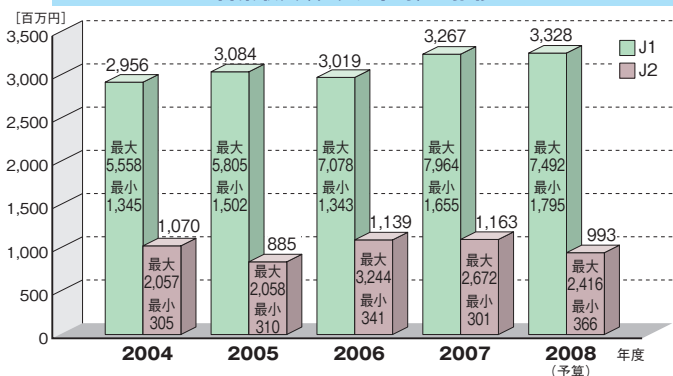
年度	2006年度(平成18年度)					2007年度(平成19年度)						
	規模	J1	割合	J2	割合	全体	割合	J1	割合	J2	割合	全体
0円	4	22.2%	4	30.8%	8	25.8%	4	22.2%	5	38.5%	9	29.0%
1円以上500万円未満	1	5.6%	1	7.7%	2	6.5%	1	5.6%	0	0.0%	1	3.2%
500万円以上1億円未満	1	5.6%	1	7.7%	2	6.5%	1	5.6%	2	15.4%	3	9.7%
1億円以上2億円未満	3	16.7%	2	15.4%	5	16.1%	1	5.6%	3	23.1%	4	12.9%
2億円以上5億円未満	6	33.3%	3	23.1%	9	29.0%	7	38.9%	2	15.4%	9	29.0%
5億円以上	3	16.7%	2	15.4%	5	16.1%	4	22.2%	1	7.7%	5	16.1%
合計クラブ数	18	100.0%	13	100.0%	31	100.0%	18	100.0%	13	100.0%	31	100.0%

■2007年度の無借金クラブ(北から): 山形、鹿島、草津、F東京、川崎F、名古屋、C大阪、徳島、愛媛

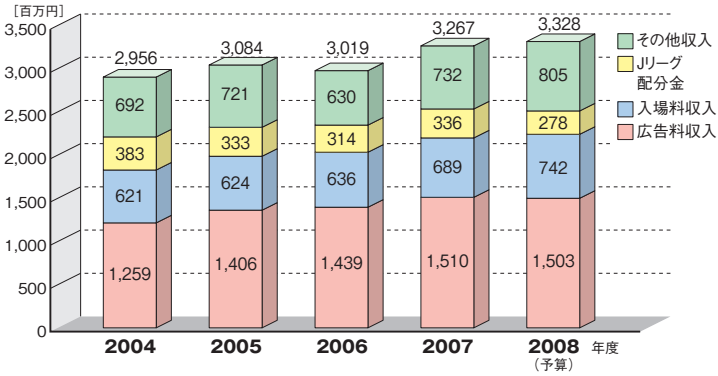
チーム人件費(監督・コーチ・選手) / 売上高比率分布表

年度	2006年度(平成18年度)					2007年度(平成19年度)						
	人件費比率	J1	割合	J2	割合	全体	割合	J1	割合	J2	割合	全体
40%未満	2	11.1%	3	23.1%	5	16.1%	1	5.6%	1	7.7%	2	6.5%
40%以上50%未満	10	55.6%	3	23.1%	13	41.9%	9	50.0%	9	69.2%	18	58.1%
50%以上	6	33.3%	7	53.8%	13	41.9%	8	44.4%	3	23.1%	11	35.5%
合計クラブ数	18	100.0%	13	100.0%	31	100.0%	18	100.0%	13	100.0%	31	100.0%
平均比率		47.8%		57.8%		50.0%		46.9%		46.9%		46.9%

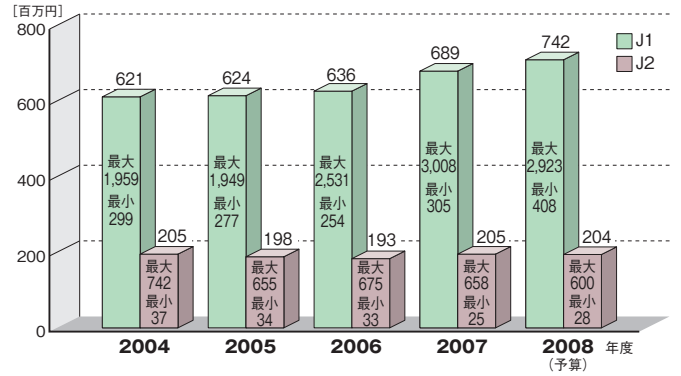
営業収入(クラブ平均)の推移



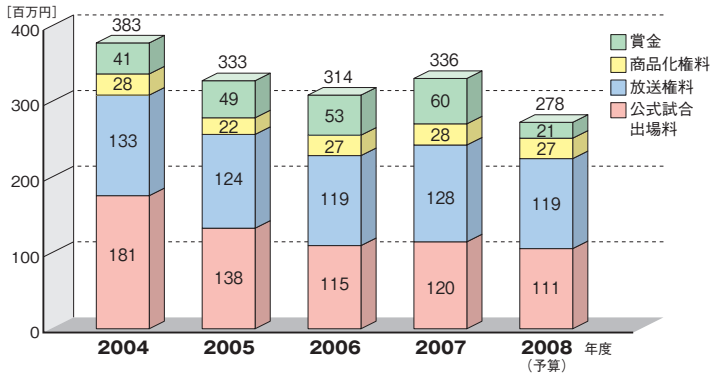
営業収入内訳の推移 (J1クラブ平均)



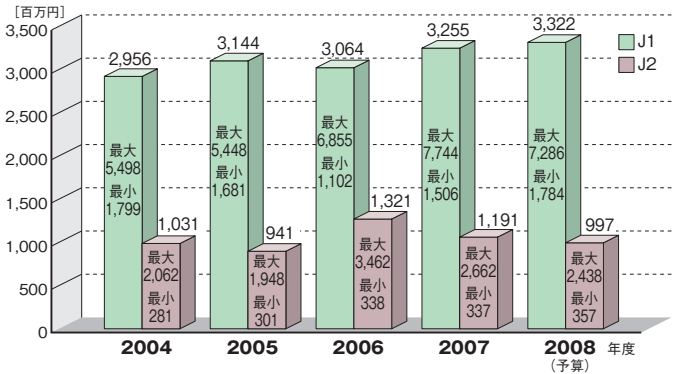
入場料収入(クラブ平均)の推移



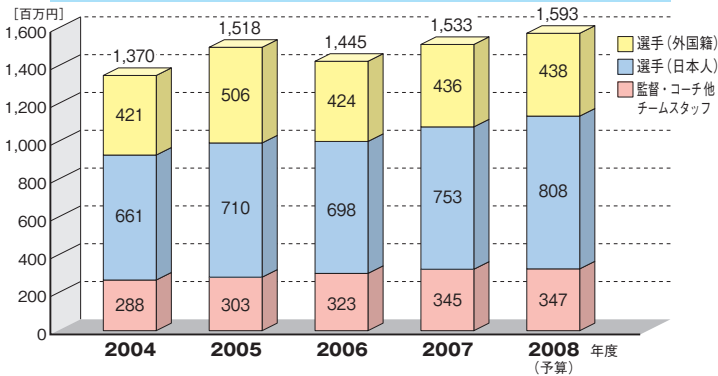
Jリーグ配分金の推移 (J1クラブ平均)



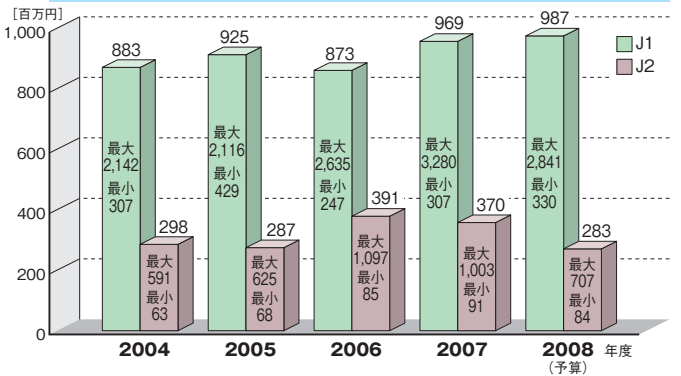
営業費用(クラブ平均)の推移



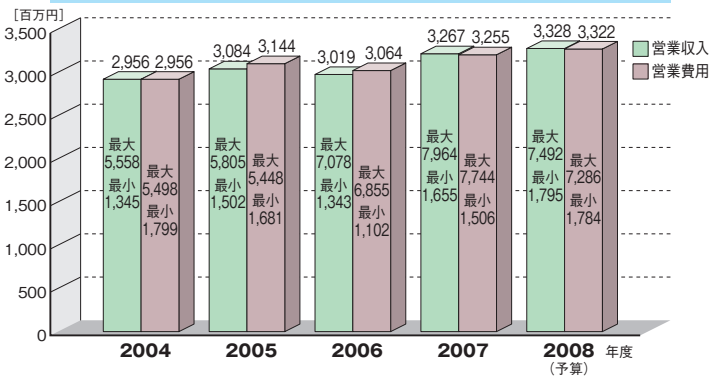
選手等人件費の推移 (J1クラブ平均)



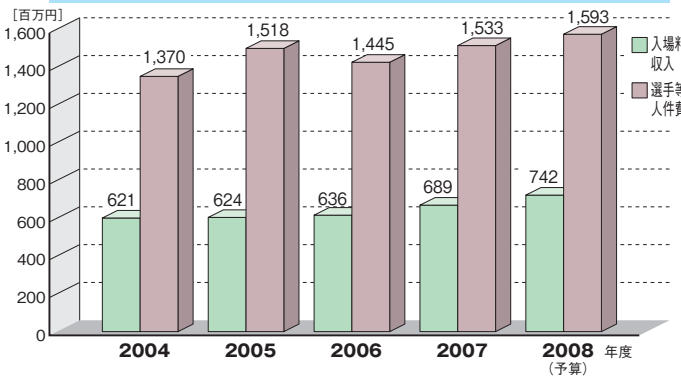
物件費(クラブ平均)の推移



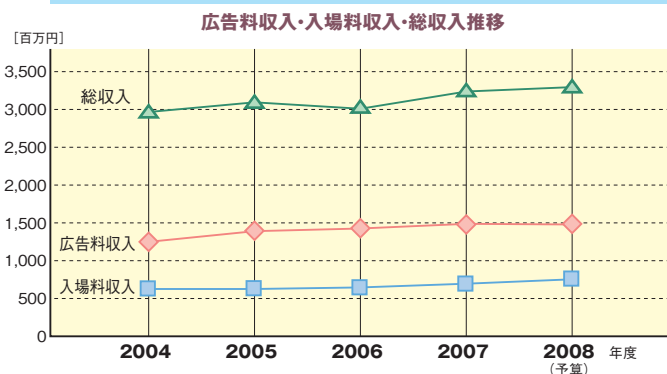
営業収入と営業費用の推移 (J1クラブ平均)



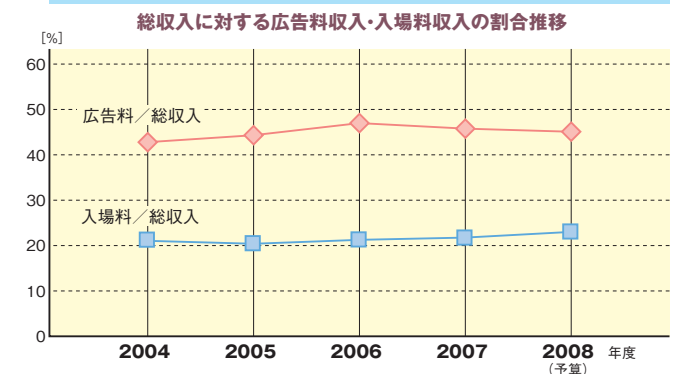
入場料収入/選手等人員費 (J1クラブ平均)



Jクラブ収入構造の変化1 (J1クラブ平均)



Jクラブ収入構造の変化2 (J1クラブ平均)



2007年度(平成19年度)Jクラブ個別経営情報開示資料

(単位:百万円)

クラブ名	J1																			J1総額	J1平均
	鹿島	浦和	大宮	千葉	柏	F東京	川崎F	横浜FM	横浜FC	甲府	新潟	清水	磐田	名古屋	G大阪	神戸	広島	大分			
決算期	平成20年1月期	平成20年1月期	平成20年1月期	平成20年1月期	平成20年3月期	平成20年1月期	平成20年1月期	平成20年1月期	平成20年1月期	平成20年1月期	平成19年12月期	平成20年1月期	平成20年3月期	平成20年1月期	※平成20年1月期	平成19年12月期	平成20年1月期	平成20年1月期			
■経営成績																					
営業収入	3,983	7,964	2,842	3,112	3,143	3,347	3,105	4,909	1,706	1,655	2,661	3,180	3,594	3,635	3,212	1,865	2,626	2,261	58,800	3,267	
(広告料収入)	1,667	2,384	1,960	1,347	1,930	1,243	1,683	2,626	647	768	977	1,317	2,127	2,247	1,437	660	1,193	968	27,181	1,510	
(入場料収入)	636	3,008	305	568	411	778	524	837	471	436	906	577	524	626	534	329	438	492	12,400	689	
(Jリーグ配分金)	503	835	248	267	258	278	385	293	274	276	277	338	277	272	488	243	285	248	6,045	336	
(その他)	1,177	1,737	329	930	544	1,048	513	1,153	314	175	501	948	666	490	753	633	710	553	13,174	732	
営業費用	3,805	7,744	2,840	2,692	3,105	3,581	3,096	4,674	1,861	1,506	2,953	3,166	3,515	3,592	3,304	2,422	2,567	2,172	58,595	3,255	
(事業費)	2,850	6,958	2,403	2,412	2,641	2,756	2,600	3,732	1,525	1,100	2,272	2,586	2,845	3,061	2,635	1,926	2,081	1,926	48,309	2,684	
内選手・チームスタッフ人件費(注)	1,736	2,841	1,384	1,310	1,693	1,680	1,639	1,961	862	741	1,374	1,263	1,575	1,770	1,927	1,317	1,236	1,283	27,592	1,533	
(一般管理費)	955	786	437	280	464	825	496	942	336	406	681	580	670	531	669	496	486	246	10,286	571	
営業利益	178	220	2	420	38	▲234	9	235	▲155	149	▲292	14	79	43	▲92	▲557	59	89	205	11	
経常利益	184	235	0	418	40	▲235	48	214	▲153	152	▲198	18	86	65	67	▲74	55	78	1,000	56	
当期純利益	162	62	8	94	37	▲236	24	▲1	▲155	54	▲202	17	85	70	67	▲75	53	76	140	8	
■財政状態																					
総資産	2,337	2,262	1,044	1,041	758	703	1,104	2,425	474	566	1,145	1,105	1,158	764	1,216	1,012	1,088	1,047	21,249	1,181	
総負債	635	1,717	1,031	600	855	182	588	2,510	570	381	882	613	777	288	1,121	917	535	1,610	15,812	878	
純資産	1,702	544	12	441	▲96	520	515	▲85	▲95	184	262	491	381	475	95	95	553	▲563	5,431	302	
資本金	1,570	160	100	100	22	815	349	30	228	367	712	550	679	400	10	98	2,110	463	8,763	487	
繰越利益剰余金	▲14	384	▲327	341	▲118	▲294	135	▲122	▲323	▲182	▲450	▲58	▲297	75	85	▲563	▲1,556	▲1,089	▲4,373	▲243	

クラブ名	J2													J2総額	J2平均
	札幌	仙台	山形	水戸	草津	東京V	湘南	京都	C大阪	徳島	愛媛	福岡	鳥栖		
決算期	平成19年12月期	平成20年1月期	平成20年1月期	平成20年1月期	平成20年1月期	平成20年1月期	平成20年1月期	平成19年12月期	平成20年1月期	平成20年1月期	平成19年12月期	平成20年1月期	平成20年2月期		
■経営成績															
営業収入	1,255	1,543	539	301	553	2,672	970	2,125	2,066	634	466	1,421	572	15,117	1,163
(広告料収入)	433	399	93	62	258	300	370	1,460	1,102	267	164	669	237	5,814	447
(入場料収入)	464	658	89	43	87	200	141	301	200	25	59	266	136	2,669	205
(Jリーグ配分金)	144	124	119	130	122	142	118	131	109	115	113	121	117	1,605	123
(その他)	214	362	238	66	86	2,030	341	233	655	227	130	365	82	5,029	387
営業費用	1,442	1,601	510	337	525	2,662	970	2,085	2,045	674	466	1,385	775	15,477	1,191
(事業費)	1,214	1,389	402	240	386	2,327	763	1,683	1,497	507	334	1,024	545	12,311	947
内選手・チームスタッフ人件費(注)	537	732	251	140	184	1,290	504	1,051	889	334	185	610	377	7,084	545
(一般管理費)	228	212	108	97	139	335	207	402	548	167	132	361	230	3,166	244
営業利益	▲187	▲58	29	▲36	28	10	0	40	21	▲40	0	36	▲203	▲360	▲28
経常利益	8	35	29	▲40	26	4	3	46	24	▲40	0	22	▲204	▲87	▲7
当期純利益	6	6	29	▲40	22	4	1	11	208	▲40	0	21	▲205	23	2
■財政状態															
総資産	983	777	163	112	83	669	288	822	486	446	241	439	201	5,710	439
総負債	1,175	323	38	128	150	662	220	552	170	74	30	284	152	3,958	304
純資産(山形は正味財産)	▲192	453	124	▲15	▲66	7	68	270	316	371	210	155	49	1,750	135
資本金(山形は基本財産)	2,556	2,328	0	104	159	89	434	3,605	315	409	208	90	419	10,716	824
繰越利益剰余金	▲2,748	▲1,874	124	▲142	▲228	▲81	▲431	▲3,334	1	▲37	2	▲96	▲638	▲9,482	▲729

J1・J2総額	J1・J2平均
73,917	2,384
32,995	1,064
15,069	486
7,650	247
18,203	587
74,072	2,389
60,620	1,955
34,676	1,119
13,452	434
▲155	▲5
913	29
163	5
26,959	870
19,770	638
7,181	232
19,479	628
▲13,855	▲447

(注) 含まれる項目

- ・監督・コーチおよび他のチームスタッフ人件費(下部組織を含む)
- ・選手人件費(報酬の他、支度金、移籍金償却費を含む)

※G大阪の決算期間は平成19年4月1日～平成20年1月31日

13 京都サンガF.C.



ゼロから築き上げた信頼関係。 地域密着と人材育成を両輪に

引っ張りだこの選手たち

千二百年以上の歴史を持つ古都・京都に本拠を置くクラブとして京都サンガF.C.が積極的に取り組んでいるのは地元商店街との連携。クラブ旗やバナーの掲出に始まり、各種イベントでのブースの設置やグッズの販売、選手のふれあいサイン会…。「一日商店街理事長」を務めた選手もいる。市街地のいたるところにある大小さまざまな商店街で、まさに地域に密着した活動が行われている。

きっかけは4、5年前にさかのぼる。京都市東山区にある昔ながらの商店街に粘り強くお願いし、セールの時にサンガのブースを出させてもらった。理事長が「うちの商店街もクラブも、ともに手を取り合って活性化していかないとけない」と手を差し伸べてくれたおかげだった。そこから商店街同士の横のつながりなどを通して「協力の輪」が徐々に広がっていった。今では、京都市内外の約40の商店街がサンガのクラブ旗を掲げる。商店街主催のイベントだけでなく、区民まつりなどでもサンガの選手は引っ張りだこだ。

ただ、京都は「いちげんさん(初めての客)お断り」の言葉でも知られるように、伝統を重んじる保守的な土地柄。街並みがそのまま歴史の舞台となっているような古くから存在する商店街の人々と、ゼロから密接な信頼関係を築き上げるのは一筋縄ではいかなかった。

営業企画部副部長の路木健さんは「実際、初めて商店街に行ったときにサンガの認知度が低いなと痛感した」と振り返る。会合などに何度も足を運ぶなどして熱意を示した。イベントへの参加が認めら



路木 営業企画部副部長

れると、路木さん自身、真夏に汗だくになりながらクラブのマスコット「パーサクン」の着ぐるみをかぶったこともある。そんな地道な努力が実を結び、2007年には京都市民の台所として知られる錦市場商店街で新ユニフォームの発表会を実施した。真新しいユニフォームを身にまとった選手がファッションシ

ョーのモデルさながらに商店街に設けられた花道を歩くと、両脇の観客から大きな拍手がわき起こった。

ある商店街では、商店主らの慰労会として京都市西京極総合運動公園陸上競技場兼球技場で行われるサンガのホーム試合を観戦するツアーが組まれた。京都における地域コミュニティの基盤である商店街との連携は、J1に復帰した今季、そのまま1試合平均で昨季の倍近い入場者数を記録している実績にもつながっている。

「地域の人々にとって、古くからある地元の商店街はいわば生活の一部。そういうところと協力することによって、サンガも日常生活の一部になる。サンガの存在価値が必然的に高くなっていくことにつながる」と活動の理由を説明した路木さんは「はじめのころは『こちらからお願いします』だったのが、今では『うちのイベントに来てよ』になった。ひとつの道筋ができたのではないのでしょうか」と手応えを口にした。

学生の街のスポーツ振興

多くの大学がキャンパスを置く京都は、学生の街でもある。各大学には体育会のサッカー部だけでなく、数多くのサッカー同好会が存在する。そういう同好会チームを対象にした「京



ファッションショーさながらの新ユニフォーム発表会(写真は加藤大志選手)。花道の両脇は観客でぎっしりと埋まり、熱気があふれた ©KYOTO P.S.

都学生同好会サッカー選手権大会」(通称・紫京杯)は今年で8回目を迎えた。京都における新しいスポーツ文化の創造・振興を目指すサンガは大会の創設に携わり、今もさまざまな面でバックアップする。8月23日に西京極で行われたホームのアルビレックス新潟戦の試合前に開会式を実施。サンガの練習場があるサンガタウン城陽人工芝グラウンドも大会会場のひとつだ。ちなみに今大会には13大学から104チーム、約2,200人が参加している。

また、サンガ独自の取り組みとして、06年から始まった京セラ、学校法人立命館学園とのコラボレーションによる「スカラアスリートプロジェクト」がある。サッカー選手としてだけでなく、社会人として、また人間としても優れた人材を育成するのが狙いで、毎年約10人が選抜されてサンガユース(U-18)に入るとともに、幕末の志士、坂本龍馬のように大きな夢を抱き、世界をめざして活躍する人間に育ってほしいとの思いが込められた選手寮「RYOUMA」から近くの立命館宇治高校に通学する。

入学金、学費は立命館が奨学金として負担し、寮費、食費はサンガが全額負担。昨年8月にはフランスのグルノーブルフット38と業務提携し、海外チームへの練習参加も可能となった。

プロジェクト発足から3年目を迎えた今年は、高校1年生から3年生までがそろった。来春には初の卒業生が生まれる。地域密着と人材育成を両輪に、サンガの「百年構想」は走り続ける。

(産経新聞社 北川 信行)



スカラアスリートプログラムに選抜された選手たちが寄宿する「RYOUMA」。ここから近くの高校へ通学する ©KYOTO P.S.

誰もが気軽にスポーツを楽しめるような環境づくりを目指す「Jリーグ百年構想」の実現に向けて、JリーグとJクラブはさまざまな施策を展開している。その活動の最前線ともいえるJクラブは、それぞれのホームタウンを中心に、地域の特徴、実情などに応じて多彩なプログラムに取り組む。地域に根差し、活力を与えるこれらの活動を、各地のメディアがリポートするシリーズの7回目は、京都サンガF.C.とベガルタ仙台にスポットを当てた。



14 ベガルタ仙台



健康づくりと地域の活性化。 宮城の元気がクラブの元気に

クラブの知名度を活用

「早寝、早起き、朝ご飯、ヤー」。深まる秋の空の下、朝から元気な子供の歌声がこだました。

昨年10月8日、宮城県川崎町の国営みちのく杜の湖畔公園で行われた第4回ベガルタウオーク。集まった約100人の参加者が、冒頭の「はやね はやおき あさごはんのうた」に合わせた体操や公園内のウォーキング、元日本代表でベガルタ仙台でも活躍した岩本輝雄さんのサッカー教室などで軽快な汗を流した。

「早寝 早起き 朝ご飯」とは、子供の生活リズムの向上を目指して文部科学省などが2006年から実施している国民運動プロジェクト。仙台は昨年4月からクラブ内に宮城県事務局を設け、運動を積極的にサポートしている。

「子供の健全育成を願う思いはクラブの活動方針と一致する。ベガルタを愛してもらうきっかけにもなれば」。事務局長を務める齋藤美和子 地域推進貢献課長は思いを語る。



齋藤 地域推進貢献課長

運動への子供の認知を高めるため、クラブの知名度を最大限に活用。イヌワシをモチーフにした Mascot キャラクター「ベガッ太」を描いたステッカーや塗り絵を作製し、ホーム試合や運動の普及活動などで配布。ベガッ太の着ぐるみも運動に関係する各種イベントに出演し、子供たちに周知を呼び掛ける。

「人気キャラクターだけに子供の反応は上々。ステッカーなどをしっかり手に取り、関心を持ってくれる」と齋藤課長。商標権を有するJリーグなどの理解を得て、キャラクターの使用料は無償だという。

子供だけでなく、高齢者の健康維持を目指した貢献活動も活発だ。クラブは07年から5年間の中期ビジョンで「高齢者の介護予防事業への参画」と明記。その一環として介護予防に力を入れる仙台市などに協力し、宮城県内各地で開く健康体操教室は06年の開始から約90回を数える。血圧測定などの健康チェックに始まり、音楽に合わせた簡単な柔軟体



2001～03シーズンに仙台で活躍した岩本さん(左端)と共にウォーキングを楽しむ参加者たち

©ベガルタ仙台

操やダンスなどを指導している。サッカーチームを運営するクラブが主催する教室ゆえ、「最初は激しい運動をすと思い込まれて敬遠された」と齋藤課長は笑う。それが今では、宮城県柔道整復師会なども協力して健康相談を受け付けるなど、丁寧な体調管理のサポートが口コミで広がって人気を集め、各地から開催の要請が相次いでいるという。高齢者に元気を取り戻すクラブの思いはしっかり伝わっているようだ。

地域密着の姿勢を示す

齋藤課長は「健康づくりは年齢に関係なく必要。そのための誘導的な役割を、プロスポーツに取り組むわれわれが担うのは当然のこと」と強調。その延長線上として「健康な体は元気を生み、街も元気になる」との考えから、地域の活性化にも取り組み始めた。

仙台市中心部の中央市場。「壱貳参(いろは)横丁」の愛称を持ち、飲食店やブティックなど約100店が名を連ねるアーケード街の店頭には、仙台のチームフラッグがところ狭しとはためく。ベガルタの知名度を生かした活性化を目指す商店街側に、クラブが全面協力。フラッグ約100本を無償提供したほか、これまでに選手が参加しての芋煮会、店内でアウェイ試合

のラジオ中継を流しての応援イベントを開催。9月からは、来店者をホーム試合に招待するスタンプラリーも新たに始める。

このほか、ホームスタジアムのユアテックススタジアム仙台で宮城県内の物産展ブースを今季はすでに3回開設。市町村や各種団体に声を掛け、地元産の食材を使った宮城の味を販売している。「地域密着を目指すクラブの姿勢を示した」と齋藤課長。7月26日のFC岐阜戦では、自家栽培のもち米で作ったもちや団子、三陸産の海産物を使ったウニめしやアサリめしが、レプリカユニフォームに身を包んだサポーターらに飛ぶように売れ、出店した業者もほくほく顔だった。

宮城を元気にすることは、クラブの元気につながる。齋藤課長は強調する。「元気だからこそ、スタジアムに足を運んで声援を送ってもらえる。そして、それが戦う選手のエネルギーになる。これからも『おらがまちのチーム』とさらに認知されるような地域貢献活動に取り組んでいきたい」。現在は、10月5日に約1年ぶりに開くベガルタウオークの準備に忙しいという。健康で元気なまちづくりという理念を形にするため、クラブの果たすべき役割はまだ大きい。

(河北新報社 原口 靖志)

Jリーグ ヤマザキナビスコカップ

大会 決勝のカードが大分vs清水に決定

大分はクラブ史上初の決勝進出、清水は12年ぶり2度目の優勝を目指す

2008 Jリーグヤマザキナビスコカップ決勝

2008年11月1日(土) 13:35キックオフ
国立競技場

大分トリニータ vs 清水エスパルス

ホーム&アウェイによる2008 Jリーグヤマザキナビスコカップ準決勝が9月3日、7日に行われ、名古屋グランパスに勝った大分トリニータ、ガンバ大阪を下した清水エスパルスが、それぞれ決勝進出を決めた。

アウェイの第1戦を1-1の引き分けに持ち込んだ大分は、ホームの第2戦の49分、FWウェズレイがロングシュートを決めて1-0の勝

利。2試合の通算成績を1勝1分とし、クラブ史上初となる決勝進出を成し遂げた。

清水はホームの第1戦を1-1と引き分けたが、第2戦は3分の先制点で優位に立ち、MF枝村匠馬の2得点などでG大阪に3-2と競り勝った。やはり1勝1分とし、優勝した1996年以来、12年ぶり4度目の決勝進出だ。

また、予選リーグから準決勝まで各試合会場

で実施してきた「ナビスコキッズイレブン クラブといっしょにファイナルを目指そう!!」のイベントには、昨年の累計1万6787人を上回る1万8980人が参加。大分、清水の試合会場で参加した子供たちの中から抽選で11名が決勝に招待され、キックオフ前に国立競技場のピッチ上で行われるシュートゲーム、ドリブルゲームなどで対戦する。



クラブ史上初の決勝進出を決め、円陣を組んで喜びを分かち合う大分の選手たち



第2戦終了後、ゴール裏のファン・サポーターの歓喜に応える清水の選手たち

実行委員選任・参与選任

Jリーグは8月26日に開催した理事会で、下記の実行委員選任を承認、参与選任を決定した。

実行委員		
クラブ名	変更前	変更後
コンサドーレ札幌	児玉 芳明 (株)北海道フットボールクラブ 前代表取締役社長	矢萩 竹美(やはぎ たけみ) (株)北海道フットボールクラブ 代表取締役社長

参与

児玉 芳明：前コンサドーレ札幌 実行委員
2005年4月～2008年8月 (在任期間3年4カ月)

第1回全国スポーツクラブサミット兼第10回スポーツクラブセミナー (JSCAインストラクター及びディレクター各資格取得講座)を後援

Jリーグは、財団法人 日本スポーツクラブ協会 (JSCA) と、全国スポーツクラブ連絡協議会が主催し、11月22日(土)、23日(日)に独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立オリンピック記念青少年総合センターで開催される「第1回全国スポーツクラブサミット兼第10回スポーツクラブセミナー」を後援する。このサミット兼セミナーは、クラブ運営の核となる人材輩出のために、JSCAが認定する資格の取得講座として開催されると同時に、総合型地域スポーツクラブ育成に関する基本的な考え方ならびに具体的な事業実施方策について研究、協議することを目的とする。

東京芝生フォーラム2008を後援

Jリーグは、東京都が主催し、11月29日(土)、30日(日)に東京都庁で行われる「東京芝生フォーラム2008」を後援する。このフォーラムは、校庭の芝生化を広くアピールし、東京芝生応援団の発足と参加の呼びかけを目的としている。

「Jリーグ百年構想」を伝えるテレビ番組がスタート

Jリーグを支える人々の姿、世代を超えて紡がれるメッセージを伝えるテレビ番組、「百年旅行～明日へ紡ぐメッセージ」がスタート。豊かなスポーツ文化の醸成という壮大なプロジェクトを担うさまざまな人物を通し、「Jリーグ百年構想」のメッセージを伝える。

番組概要

- 番組名：「百年旅行～明日へ紡ぐメッセージ」
- 放送開始日：2008年10月10日(金)
- 放送局：BS日テレ
- 放送時間：毎週金曜日 22:30～23:00



「Jリーグニュース」は100%再生紙を使用しています。